



No. 106

新設図書館の紹介

赤磐市立中央図書館



赤磐市は、平成十七年三月に旧山陽町・赤坂町・熊山町・吉井町の四町が合併して誕生した人口約四万五千人、面積二〇九km²の市です。豊かな自然や、両宮山古墳に代表される歴史遺産に恵まれる一方で、交通網の発達などにより田園都市的な環境整備も進んでいます。

赤磐市立中央図書館の前身山陽町立図書館は、昭和五十四年中央公民

館三階に「公民館図書室」として開室以来、昭和六十一年には町役場西側に増築移転「山陽町立図書館」として、平成三年以降は「山陽町立図書館」と改称して多くのみなさんにご利用いただけてきました。しかし、六〇〇m²のスペースでは徐々に増加する蔵書に対応できず、中学校の空き教室を書庫として使用させていたなど、図書館運営は限界を迎え、新しい図書館の建設は長年の懸案となっていました。

そのような中で、平成二〇年六月六日に念願の新赤磐市立中央図書館（愛称「きらりプラザ」）が市役所・中央公民館の向かいに新築オープンしました。開館翌日の土曜日には九四八人も市民のみなさんが来館され、貸出者数七〇七人、貸出冊数二、九二八冊、新規の利用者カードの発行五十五人と大盛況となりました。

新図書館は、くゆとりと潤いに出会う図書館“を基本コンセプトとしており、一階には一般書七万冊、児童書三万冊、CD・DVD六千点、ビデオ千点、録音図書千五百点の収蔵能力があります。

書架は、書架間二・五mとゆったりとした間隔で配置されています。ICTタグによる貸出システムを導入したことで自動貸出機が設置されましたし、利用者用のインターネット検索パソコンでは有料データベースが利用できるようになりました。視聴覚ブースでDVDやビデオの視聴やCDを聴くこともできるようになりました。

また、書架と閲覧机に囲まれた個室型の地域・行政・産業・歴史・美術・青少年の各コーナーや、対面朗読室も設置するなどゆったりとしたスペースの中にこれまではなかったさまざまな特色あるコーナーを配置することができました。

図書館中央に位置する新聞・雑誌コーナーには新聞二〇紙、雑誌二五〇誌を置くことが可能になっています。

屋外の水盤に面した窓辺では、緑のあふれる庭園を眺めながら読書やCDを楽しむこともできます。

児童コーナーには、ちいさなドアをくぐって入る「おはなしのへや」があります。「おはなしのへや」子ども向け行事に使われますが、普段は親子で自由にくつろいで絵本や

紙芝居を楽しむことも可能です。多目的ホールは映写会・講演会・展示会等に使用しています。

また、くつろぎコーナーでは飲食が可能で、読書に疲れた人がコーヒを飲んだり、久しぶりに出会った知人とのおしゃべりを楽しんでおられる風景もよく見受けられます。

二階には、一階に比べると書架間はやや狭くなっていますが、利用者が自由に立ち入れる三万五千冊収蔵可能な開架書庫と、職員が対応する七万五千冊収蔵の電動集密の開架書庫があります。

開架書庫に隣接した三十七席を有する閲覧コーナーでは、じっくりと腰をすえて学習をすることができま

す。

赤磐市では、新中央図書館の開館を契機に市内四図書館の定例の休館日を統一し、毎週月曜日と十二月を除く毎月最終金曜日の館内整理日のみとしました。これまで祝日は休館していましたが、月曜日や館内整理日と重ならない祝日は開館となりました。

開館時間は、全館とも午前十時から午後六時までですが、午後六時までは来館しにくいという利用者のために中央図書館のみですが、木曜日だけ午後八時まで開館としました。

平成十九年四月に市内四館の図書

館システムを統一しましたが、今年度から、図書館用の軽四自動車を導入して市内四館を毎日一便巡回して資料の搬送をするようになり、本来の意味で中央図書館と三つの地区図書館が一体化した複合館運営ができればよいとなりました。

図書館主催行事として、定例の行事である読み聞かせやおはなしの会や「さらに☆シアター」と名付けた映画会のほかに、今年度は「図書館フェスティバル」「ブックトーク」「古典文学講座」「文学講演会」「えほん講座」「郷土の人物講座」「対面朗読ボランティア養成講座」等を企画しています。

開館のあわただしき、夏休みのにぎやかさの波が去った今、市民の皆さんの役に立ち親しまれる図書館をめざして職員一同がんばっているところです。(小倉・記)

玉野市立図書館67区域カーブス 直島(香川県)との連携

玉野市立図書館 青木 知恵子

香川県にある直島は、瀬戸内海に浮かぶ人口約三千四百人の島である。今、地中美術館、町プロジェクトなどアートの島として有名である。

玉野市から三キロ、宇野港からは二十分のところにある直島町は、昔

から玉野市とゆかりがあり、経済や人との交流など深い繋がりがあり、現在も通勤や通学している住民の方生活圏内として買い物や病院などを利用している住民の方たちも多い。

直島町民の図書館利用は、利用規則に沿って通勤・通学者のみであった。玉野市立図書館が直島町へ広域サービスに踏み切ったのは平成十二年の十一月である。直島町には図書館が無く、香川県立図書館からの配本サービスのみのため、直島町より玉野市へ読書好きな町民に図書館利用への要望があったからである。当時の利用の手続きは、利用希望者が直島町教育委員会で申請を行った後に、玉野市立図書館で登録申請書の申し込みをして利用できる方法をとっていた。

平成十八年十一月には、図書館利用の手続きの簡素化等の要望があり、平成十九年二月二十日に玉野市と直島町が図書館利用について協定調印式を行い、同年四月より玉野市立図書館で直接図書館カードの申請をすれば簡単に利用できるようになった。これを機会に定例行事や新刊情報掲載した『図書館だより』を送付して情報提供を行っている。

現在町民の登録者数は、八十一名(九月末)である。『広報なおしま』の三月、四月号で協定及び玉野

市立図書館利用の紹介記事の掲載後は、利用登録も増え続けている。十九年度は、利用数は約一九〇人と前年の六倍、貸出数も約七八〇冊と前年の七倍と急激な増加があった。また、インターネットの予約利用もある。利用者層は、定期的に来館する年配の人、仲睦まじく本を探している親子づれ、会社の寮に住む独身者などがある。貸出冊数に五冊と制限があるが、利用者からは、図書館を利用できる喜びと楽しさが伝わってくる。

直島への広域サービスを通して、いつでも、だれでも、どこでも利用できる図書館の役割や使命の大切さをおぼえる。今後、県市町村を越えて、住民がその地域の生活圏内に近い図書館が利用できるエリアの拡大を図れば、更に図書館が身近になり、だれもが生活の中に溶け込んだ図書館として利用するのではないだろうか。

今回、企画委員会で界外の図書館の事例紹介をしてほしいという提案がありましたので、寄稿して頂きました。

カーブスJUGER配架!

滋賀県東近江市立能登川図書館

嶋田 学

みなさんが勤務する図書館では、資料をどのようなルールのもとに配架されているでしょうか。もちろん、

日本十進分類法(以下、NDC)がその根幹を成しているとは思いますが、それ以外に開架をデザインする上で参考にされた考え方や、法則などはありませんか。

ご存じのとおり、NDCは図書館資料の学術的分類を目的に編纂されたもので、配架法として編まれたものではありません。というのも、公共図書館において、どのような資料をどのように配置するかは、各々の事情によって全く異なる価値観や方法論によってなされるべきで、画一的、一般論的な書誌の分類法をもって配架法に併用するには限界があったからでしょう。

しかし、NDCは一応多様な主題をひとまとまりのカテゴリーで「分類」してあるわけですから、とりあえず、配列方法として代用は利くということ、これが長らく図書館の配架法として採用されてきました。

しかし、NDCの配列が、實際生活に即した発想で本を探せる体系かという点、これには大きな疑問を寄せざるを得ません。書店の本の配置と比較したとき、それは端的にあらわれず、専門家の司書である読者諸兄を前に具体例もないですが、例えば植物関連の書籍の棚は、花の図鑑と花の咲かせ方の本が分かれて置かれているなどということはまずあ

りません。動物の図鑑と飼育方法し
 かり、経営管理としてのコーチング
 の一般論と、店員の上手な育て方と
 いった本が分離されるなどというこ
 とはありません。図書館では、これ
 ら関連資料が、47▽と62△、48
 △と64△として、また366と
 673というように、全く離れた棚
 に配架されることとなります。

私が大阪のとある図書館に就職し
 た時、利用者の質問に答えて棚の
 方々を案内する先輩司書に憧れを抱
 いたものでした。しかし、自分も利
 用者からの質問に答えるうち、それ
 らの案内は、そもそも関連する資料
 が集められていれば、利用者を連れ
 まわす必要のないものであることが
 分かってきました。

「これは利用者にとって親切な棚
 ではない」私は、資料提供という
 サービスは、選書の次に何をしなけ
 ればならないか、というテーマに行
 き当たりました。

大阪で図書館員を十一年経験した
 後、滋賀県で新しい図書館を準備す
 る機会に恵まれました。それを機会
 に、利用者が探している本と出来る
 だけ自然に、生活感覚で出会える配
 架をしようと思いました。当時準備室
 長も同じ考えを持っていたので、職
 員全員で配架について議論を重ねま
 した。そこで考えたことは、

①・・・生活感覚で本を探すとき、
 NDCでは分離されてしまう資料
 を統合する。

②・・・NDCの一桁目の大きなカ
 テゴリーとして、開架スペースの
 中に主題分野を大きくゾーニング
 し、そこに相応しい分類群を当て
 はめていく。

という方法論でした。具体的に当
 時の永源寺図書館のカテゴリーと
 ゾーニングの名称をご覧頂きます。
 くらしをゆたかにⅡ家政学Ⅲ子育て
 Ⅳ教育Ⅴ仕事Ⅵ福祉

自然のふしぎⅡ医学、自然科学、数
 学、物理、宇宙
 動物とくらすⅡペット、動物、鳥類、
 昆虫、水生動物、生物学
 みどりと農林業Ⅱ園芸、植物、農業、
 林業

環境コーナーⅡ自然保護、リサイク
 ル
 地理と歴史・旅Ⅱ日本地理、ガイド
 ブック、日本史

Ⅱ外国の歴史と地理
 ガイドブック、言語 ※外国の
 地理との関連
 衣食住・祭・民話Ⅱ衣食住の歴史、
 祭り、民話

工学Ⅱ特許、建築、住宅、電気、工
 ネルギー、工業
 社会と経済Ⅱ情報科学、政治、法律、
 経済、経営、商業Ⅲ金融、財政

生き方を知るⅡ哲学、思想、心理学、
 宗教
 文学Ⅱ日本の小説・エッセー、外国
 文学

芸術とスポーツⅡ彫刻、絵画、写真、
 陶芸、工作(のりもの)Ⅲスポー
 ツ、演劇、映画、趣味・娯楽

それぞれの分野の主題語に当ては
 まるNDCを想定して頂くと、いわ
 ゆる破順、NDCの0門から9門に
 順に並べられていないことがご理解
 頂けると思います。

また、ゾーニングの名称も、なる
 べく柔らかい言葉使いを心掛けまし
 た。書架の側板見出し、連見出し、
 棚ごとに差し込む分類見出しの表記
 については、NDCの相関索引の用
 語をそのまま用いるのではなく、そ
 こに配架されている本の世界を出来
 るだけ平易に思い浮かべて頂けるよ
 う工夫をしました。

そして、テ
 マ別展示のよう
 な、コーナー作
 りによる本の展
 示だけでなく、
 各主題の棚のあ
 ちこちに、その
 分野にとってカ

レントなミニコーナーを作って、本
 が利用者に語り掛けるような雰囲気
 を作っています。食品表示偽装など



の新聞記事とトレーサビリティに
 関する資料を表紙見せするとか、テ
 レビが乳幼児に与える影響に関する
 新聞記事を「テレビに子守をさせな
 いで」などという本と一緒に展示す
 る、といった具合です。

こうした工夫は、一九八五年に開
 館した八日市図書館が先駆的に始め
 ていました。東近江市立図書館では、
 その八日市図書館はじめ、能登川図
 書館、永源寺図書館など、六つの図
 書館で様々な配架の工夫に取り組ん
 でいます。

配架は、無機質なルールで機械的
 にされるべきではありません。司書
 の専門性を活かして吟味した資料を、
 いかに利用者にも効果的に手渡すか。
 これは、図書館サービスにおいて、
 仕上げとも言える重要な事柄だと
 思います。利用者にとって探しやすい
 配列を作ることが、司書の専門性
 としてもっと議論されてほしいと思
 う今日この頃です。

※配架に関する論考については、拙
 文「アグレッシブな配架の研究」
 思わず手が出る棚作りとディスプレイ
 レイアウト」、『図書館評論』第四五号
 (図書館問題研究会)及び「魅力
 的な棚づくりー利用者に分かりや
 すく探しやすい配架の研究」、『図
 書館雑誌』二〇〇五年三月号を参
 照頂けると幸いです。

※配架に関する論考については、拙
 文「アグレッシブな配架の研究」
 思わず手が出る棚作りとディスプレイ
 レイアウト」、『図書館評論』第四五号
 (図書館問題研究会)及び「魅力
 的な棚づくりー利用者に分かりや
 すく探しやすい配架の研究」、『図
 書館雑誌』二〇〇五年三月号を参
 照頂けると幸いです。

☆個人会員の紹介☆

岡山県立玉野光南高校 司書

綾野 静子



いま、岡山の高校図書館が元気だ。一人当たりの年間貸出し冊数が十冊を超える学校も目だつて多くなっている。二〇〇七年度の高校生の五月の一ヶ月平均読書冊数が一・六冊（毎日新聞調査）という数字から見ても、岡山の学校図書館はよく利用されているといえるのではないか。

しかし、なによりその元気を感ずるのは、一步図書館に足を踏み入れたときだろう。「本が呼んでいる！」といえよいのだろうか。磁力に引き寄せられるように本を手にとりたくなってしまうのだ。本屋で見た最新刊本が、新着図書として早々と紹介されているし、様々なジャンルの雑誌が目飛び込んでくるなど、イキのよい品々が利用者等待っている。そして、利用者の動線や視線を意識した館内レイアウトやポップがさらに読みたい気持ちを高めていく。本校でも文化祭の公開講

座にいらつしやつた地域の方が、「近頃の学校図書館はいいですね。」

本屋さんみたいというよりも、本屋さんよりいろいろな本がありますよね。こんな図書館だったら高校時代もつと本を読んでいたかもしれないです。」と言つてくださったりもした。

高校図書館がこのように生き生きとした場所になってきたのには、様々な要因がある。

まず、第一にあげられるのは図書館の専門的な知識を持った専任の正規職員が配置されるようになってきたことだろう。私が就職した一九七〇年頃は学校図書館の司書はすべて臨時職員であつたし、その後は新規採用者については二年間の期限付き雇用などが続き、職員の交代が激しく、研修を行つていても、専門性を追及し、発展させていくことは困難であつた。それが、図書館の機能を発揮するための理念と方法をきちんともつた専門職員の採用がはじまつたことで、学校図書館の本来の目的である、『児童又は生徒及び教員の利用に供することによって、学校の教育課程の展開に寄与するとともに、児童又は生徒の健全な教養を育成する』の実現に向けて学校図書館が動き出したということであろう。「図書館にいけばなんとかな

る！」と生徒にも先生にも思つてもらえなければ、「図書館の機能」を発揮させようがない。高校生との会話の中で興味関心をキャッチし、さりげなく図書館の本の紹介をしたり、先生との何気ない会話から授業で使つてもらえるような資料紹介をするなど、日常的なコンタクトが欠かせないことはもちろんであるが、時には「ええっ！図書館でこんなこともやるの！」というイベントを仕掛けることもある。「その道の達人」をお招きして講演をしていただくのはあたりまえで、「ミニロックコンサート」を開催した学校図書館もある。高校生が関心を持つあらゆることに図書館も無関心ではないというパフォーマンスで、「自分が知りた

るようになつてきた。やつと、本来的な「教育課程の展開」に関わることのできる図書館が生まれようとしているのだ。

しかし、このような変化も第二の要因がなければ、困難であつただろう。それは、県立図書館の県下高校への「資料搬送事業」である。「草の根を分けても、求める利用者に資料を届ける」のは図書館員として当然の仕事であるが、学校図書館の資料は限られている。近隣に助けもられない市町村図書館も無いという地域では、限界があつた。それが居ながらにして県立図書館の本を検索し、予約すれば学校まで届けてもらえる！九〇万冊の味方があり、そのうえ資料相談にもつてもらえらるれば、安心して図書館の利用を呼びかけることができるというものだ。資料があり、それを利用者きちんと届ける術を持つ人（司書）がいれば、利用が伸びないわけではない。これこそが「高校図書館の元気」の素なのである。だが、現在、高校図書館の半数にはまだ専任の司書がいない。すべての高校生が当たり前のこととして、読みたい本が読め、知りたいことにアクセスできる環境が整えられるよう、働きかけていくことも私たち高校司書の大切な仕事となつていく。

☆企画委員の紹介☆

委員長 藤原 敏子

(岡山県立図書館)

県立図書館の資料情報課で主に外国語資料の受入を担当しております。外国語資料コーナーのPRで自己紹介に代えたいと思います。

県立図書館の外国語図書蔵書冊数は一般書・児童書合わせて約3万6千冊超で、全国的にみても公共図書館中上位にランクされると思います。県に在住する外国人の割合は総人口の1%を超えており多文化サービスの重要性を痛感しています。一人でも多くの在住外国人の方に図書館の存在を知って頂くため、小さなことからコツコツと新しいサービスを考えています。

昨年はHP上に¹⁾を記による²⁾を掲載を始めた。次はPortugues 図書を充実させていきます。どうぞよろしくお願ひします。

副委員長 坪井 昭訓

(岡山理科大学図書館)

初めて企画委員会に参加させていただきました。見た目老けて見えませんが、まだまだ半人前で、ましてや公共図書館については、まるっきりの素人なのですが、大ベテランの美作大学の杉山さんに薦められ、副委

員長をやらせていただくこととなりました。

さて、昨年度からの課題である「岡山県の公共図書館の目指す方向」をまとめると言うのが、今年度の事業にあります。小さい頃から生活の中に図書館があるのが当たり前として過ごしてきた私にとって、公立図書館はなくてはならない場所です。でも、大人になって、それは贅沢な環境だったと思うようになりました。より多くの方が図書館を生活の一部と感じてもらえる様に、できれば、それを当たり前の幸せと感じてもらえるように、企画委員の皆さんと「将来、こんな図書館になれば良いな」と言うものを考えて行きたいなと思っています。右も左も分かりませんので、色々と教えてくださいます。よろしくお願ひします。

企画委員 千葉泰次郎

(岡山市立中央図書館)

企画委員会に参加すると、様々な図書館の方とお話しができ、とても勉強になります。こんな考え方、見方があるのかと刺激を受けます。研修会や講習、会報の編集等についても、見る角度が違くと、色々な意見が出てきて、楽しくもあります。

また、今回の企画委員会は、「岡山県公共図書館の目指す方向について」の策定が大きな役割になると思

います。県内の公共図書館が協力し合い、よりよい図書館を作っていくよう、多くの方々のご意見を参考にしながら、企画委員会で話し合っしていきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひします。

企画委員 天野 律子

(倉敷市立中央図書館)

私が倉敷市立図書館の司書として勤務し早や〇年と〇ヶ月。この間図書館を取り巻く情勢は大きく変わり、司書の仕事も日々変化しているように思います。

資料の収集管理、利用者への対応など常に苦勞が絶えませんが、そういった司書本来の仕事以外に複雑なパソコン操作ができなければいけません。歳と共に物覚えも悪くなり、バージョンアップの時期が恐ろしい今日この頃です。

そして今回この企画委員をさせていただきますことになり、更に図書館員としての責任を重く感じているところです。私にその役割が担えるか不安ではありますが、他の公共図書館や大学図書館の方々との交流を楽しみにして、頑張りたいと思います。

企画委員 大森 直子

(備前市立図書館)

今年度より企画委員をさせていただくことになりました。企画委員の仕事内容をよく把握しないまま、初

めの会議に出席し、大変な所へ来てしまった・・・と思いましたが、普段あまりお付き合ひのない大学図書館や離れた地域の館、経験年数や年齢も違う司書の方々の話や意見を聞くことができ、色々と勉強になりました。

今、図書館で問題となっていること、必要とされていることを会報や講習会等に取り入れられるように、委員の一員として取り組んでいきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

企画委員 渡辺 陽子

(高梁市立中央図書館)

この度、企画委員をさせていただくことになりました。果たして私で勤まるのだろうかと恐縮し、年甲斐もなく(笑)ドキドキしています。世間では(多分)中堅といわれる位の勤務年数を持ちながらも、図書館業務に携わらせていただくのは、実はやっと二年目という「中堅若輩者」です。

先日、第一回目の委員会がありました。普段交流する機会があまりない公立図書館や大学図書館の方々のお話を聞くことができ、大変勉強になります。ひとつひとつの課題に対して真摯な態度で発言される委員の皆さんをみて、自身も触発されます。貴重な機会を与えてくださったこ

とに感謝しつつ、今後の委員会に取り組んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

企画委員 徳永 ミカ

(和気町立図書館)

今年度より企画委員をさせていただくことになりました。

日頃から、可能な限り講演会や研修会に参加するようにしています。

日々の仕事に追われていきますと、そういう所で伺ったお話に刺激を受け、とても勉強になります。また会報を読んだり、他の図書館を見学させてもらうと、それぞれの館が様々な工夫をされ、こういう方法もあったのかと教えられたりします。初めての委員で不安もありますが、そんな刺激のある二年間になればと思っています。皆さん、よろしくお願いたします。

企画委員 松村 謙

(奈義町立図書館)

今年の四月から企画委員をさせていただきます。

同じ図書館員といいながら、館種や規模のことなる館の皆さんとお近づきになり、意見を交わす集まりはそれほど多くないように思います。貴重な機会を活かすべく勉強のつもりで参加させていただきました。

今期の委員会では、研修の企画や会報の編集に加えて、岡山県内の公

共図書館の活動指針を目指して策定中の「岡山県の公共図書館の目指す方向について」を形にしていこうという大きな役目が控えています。ない知恵をしばらくながら少しでもお役に立てるよう努めていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

暑い・熱い・そして温かい…

心づく燃えた夏 一日ごと図書館
フェスティバルinやかげ

矢掛町立図書館 妹尾 真理子

夜中に、雨の音で目がさめた。

ショックは隠せない。雨音を聞きながらぼんやりとした朝を迎えた。

大きなてるてる坊主が功をなしたのか雨は次第にあがっていった。

会場を歩いていると、椅子を拭いてくださる方が見えた。

「青空がみえてますよ。大勢来てくれるといいですね。」

「ありがとうございます。頑張ります。」

朝一番に会場で交わした会話だった。

(さあ!がんばるぞ。むらむらと体温があがりはじめた)

八時三十分。全員集合!・・・フェスティバルの幕があがった。



町内の読書大使の小学生、中学・

高校生のボランティア・一般の方々そしてフェスティバルが決定した時から、連絡を取り合った県立図書館の皆さん。大勢の方々との連携・協力のもとで開催できたこと心から感謝しております。そして何よりも嬉しかったことは、「図書館に初めてきました」という方が何人もいて図書館がアピールできたことです。フェスティバルの開催は図書館の利用促進にも繋がったと思います。2008の夏は忘れられない夏となりました。関係者の皆様本当にお世話になりました。

事業報告

九月三十日(火) 第一回企画委員会・・・企画委員長に藤原敏子氏、副委員長に坪井昭訓氏が選出されました。(なお、前号で委員長及び副委員長選出の記事を掲載しましたが、一〇五号発行の時点ではまだ選出されておらず、お名前も誤りでした。謹んでお詫びし、訂正いたします。)

平成二十年十一月三十日

〒七〇〇一〇八二三

岡山市丸の内二一六―三〇

岡山県立図書館

メディア・協力課 図書館協力班内

岡山県図書館協会

会長 西山 猛

電話(〇八六)二二四一―二二六九